

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 3 月 17 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400035		
法人名	医療法人 NANO グループ		
事業所名	グループホーム なずな		
所在地	長崎県雲仙市千々石町 1297-1		
自己評価作成日	平成 24 年 2 月 12 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 3 月 26 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 24 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営が医療法人の為、日中は併設の施設に看護師が常駐し、夜間はクリニックに 24 時間常駐しているので医療面での緊急は素早く対応できる。又、週 1 回医師が往診に来られる。

併設のデイサービスの利用もできるので利用者は閉じこもることがなく、のびのびとした生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設から 5 年を迎えた当該ホームは、医療法人が母体としている点からも医療との連携が密にとれ、緊急時や状態変化に応じて速やかな対応ができる事から利用者・家族はもちろん職員も安心と信頼が得られている。また内外の職員研修にて(感染症勉強会・医療事故対策)等利用者の安全に配慮して研鑽を重ね、サービスの向上にも努められている。敷地内にはデイサービスが併設されており、踊りの慰問の際など足を運ぶことができ喜ばれている。

年々利用者の重度化が進み、外出や行事等身体機能向上のアプローチが難しくなってきたが、「利用者に最期まで明るく過ごしてほしい」と昔話等の時間を大事にしたいと寄り添う職員の前向きさに真摯さが伝わるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所独自の理念は無いが、法人全体の理念が有り、職員みんなで心掛け実践できるよう心掛けている。</p>	<p>「一人ひとりの人格を尊重し、自由に安全に生活できる」の理念のもと、転倒者危険リストを作成している。職員の見守り意識を高めながら利用者本位のペースに合わせた支援を心がけている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の回覧板が届くようにしているが、交流はほとんど行えていない。</p>	<p>ご近所からの野菜の差し入れがあったりするが、利用者の重度化に伴い外出が難しく地域との交流ができていないのが現状である。</p>	<p>まずは職員だけでも地域清掃等に参加したいと具体的に目標を表明されており、地域や民生委員からの情報をもとに職員がパイプ役となって地域へのつながりに期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の人々に向けては行えていないが、家族の方々に向けて活かしている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>情報交換できるよう取組みたいが、あまり意見がない。</p>	<p>会議は福祉事務所職員、民生委員、家族代表、職員で構成されその時々で議題を抽出し、質疑応答を交えながら状況報告等を行っている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>情報交換できるよう取組みたいが、現在取り組んでいない。</p>	<p>馴染みの関係ができた頃に担当者が移動となることがあり、継続したお付き合いが難しいと悩む事も多いが、問い合わせ等で福祉事務所へ出向き関係を築く努力をしている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が理解できている。夜間以外玄関の施錠は行っていない。利用者の行動に合わせて付き添い見守りを行っている。</p>	<p>基本的に拘束は行わない方針であり、身体拘束に関して運営推進会議の議題にも挙げ、家族にも説明を行っている。不穏や点滴の際など状況に応じて職員が見守る事で対応している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修に積極的に参加し、全職員で防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、取り組んでいない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>不安や疑問に対して、理解・納得していただけるよう説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や要望があれば全職員で話し合いを行っている。また玄関に意見箱を設置している。</p>	<p>玄関入口に意見箱を設置し、また苦情窓口を明示することで傾聴の姿勢を伝え、家族の意見をくみ取るようにしている。3か月に1回のお便りを配布する事で透明性を図り面会時を利用して家族の様子を伝え、思いに添えるようにしている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その都度管理者が報告したり、会議などで報告するようにしている。又、職員からの意見や提案なども受け入れ運営に活かしている。</p>	<p>月に1回状況に応じて職員会議が開催されており、管理者は職員の意見を活かしていくよう心がけている。職員の意見を尊重していることからチームワークがとれ動きやすいと話を聞くことができた。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が職員の努力・実績勤務状況を把握し随時報告している。又、職員一人一人に仕事を振り分け向上心をもって働けるよう努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修などがある時は、法人内外問わず積極的に参加するようにしている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>独自では取り組んでいないが、GH連絡協議会に入会しており職員が研修や交流会に参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者本人からの要望や不安はなく、家族からの要望や相談があれば対応している。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>要望等があればその都度相談を受け、必要ならば話し合いの場を設け、信頼関係を築いている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の状態を把握し、その人にあった支援を見極め状態によって併設のデイサービスの利用も進めている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気・環境作りに努め、職員と一緒に作業を行う利用者ができる力を発揮できるよう支援している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会や来所された際、近状や状態など説明・報告している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の方など面会に来て下さったり墓参りなど家族の方に協力していただけるよう努めている。</p>	<p>家族の協力のもと、正月には半数以上の利用者が外泊及び外出をされており、職員も無理のないところで働きかけを行っている。希望があれば随時電話も可能である。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者が孤立しないよう職員が配慮し支援している。又、利用者同士が助けあえるよう関係性など会議で話し合っている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>現在、取り組めていない。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>生活していく中で把握し、職員全員で検討している。</p>	<p>意思疎通が難しい利用者も多いが、日々の関わりの中から小さな表情の変化を見逃さず、なるべく1対1で思いを聞く努力をし、気持ちに添えるように心がけている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前に本人や家族から情報を得ようとしている。又、職員が日々新たな情報を得られるよう心掛けている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員一人一人で得られる情報が違うので、会議などで情報交換を行うようにしている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は立てているが、利用者や家族の意見・要望をもう少し聴き出せるような取り組みが必要。</p>	<p>プラン作成時には職員全体で細かい様子や介助の方法等意見を出し合い、体調や身体機能維持に向けたプランの作成がされており、家族に説明をして同意を得られている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録はあるが、気づきや工夫などの記載はなく、職員同志で話し合いを行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外出などで要望があれば送迎を行っている。訪問看護ステーションが同法人の為、連携は整っている。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内の回覧など定期的にもらっている。行事など行う時は地域住民にも声を掛け参加していただくよう促している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>経営主体が医療法人の為に、入所時に主治医を変更していただくよう説明している。又、眼科・皮膚科・歯科などはかかりつけを受診していただいている。</p>	<p>家族の同意を得たうえで法人の主治医に変更して頂き、法人医師と連携し体調の管理を行っている。週に1回往診があり夜間の変化にも早急に対応でき本人や家族からも信頼と安心を得られている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約を結んでおり、週1回訪問していただき職員が利用者の状況など細かく伝え、処置や指導などを受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は入院先との情報提供をし、職員の面会を行ったり、看護師から状態を聞いて家族に報告している。退院時の支援についても医療機関から指導を受けている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は、家族・医師・事業所が話し合いの場を設けるようにしているが、地域の関係者とは共に取り組んでいない。</p>	<p>ホームでの看取りは院長の方針でもあり、家族との話し合いの中でもホームでの看取りを希望される事が多く、これまでに数件看取りを行った経験がある。医療チームとも協力し熱心に取り組まれている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に法人で緊急時や初期対応について勉強会や研修を行っており職員は技術など勉強している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練は行っているが、水害等の訓練は行っていない。地域との協力体制は築いている。</p>	<p>年間最低2回の避難訓練を行い、月1回チェック項目に沿った自主点検を行ったりと日頃からの防災意識も強く、備蓄品や個人情報ファイルは現在準備中である。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待など職員に説明し、職員も心掛けた対応している。個人情報についても入社時に書面で説明し、書類も漏れないよう管理している。	日常的に馴れ合いになりすぎないように心がけて、利用者の状況に応じて言葉の掛け方にも気をつけている。利用者間でトラブルが生じた際も席の配置を職員が配慮し、解決に繋げている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々過ごす中で職員が心掛けて自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援していくようにしているが、職員の業務に合わせてもらっている部分もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴前など利用者と職員と一緒に衣類など選び、おしゃれできるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と共に食事はしていないが、準備など個々の能力に合わせてできる事は職員と一緒にやっている。	重度化に伴い、お手伝いできる利用者も限られているが、季節に応じて近くの家庭菜園で収穫した豆剥き等を楽しんでいる。敬老会、お正月の食事は特に気を配られ手作りの饅頭も好評である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に食事内容を見てもらいその人の病気などふまえた上で調整している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が口腔ケアを促し出来る限り本人にしているが、不十分な部分は職員が介助している。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>ウロシートを作成し極力オムツは使用しないよう職員が時間を見ながら排尿・排泄を促している。</p>	<p>トイレでの排泄を目標に、日中は声かけ誘導で自立支援に努めて、言葉かけの仕方や羞恥心に配慮した対応を工夫して心掛けられている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>栄養士・看護師などと相談し消化に良いものや腹部マッサージなど行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間や曜日は決めていないが、利用者の希望を聞き主に午後に行っている。入浴した方が良く思われる時は説明し入浴していただいている。</p>	<p>基本的には週2～3回の入浴で、希望があれば毎日の入浴もできる。入浴拒否をされる利用者に対しては言葉かけや関わりに変化をつけた対応を工夫して、清潔保持に配慮されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転がないよう日中は活動を促している。希望に沿って休憩していただいたりしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者ごとに薬情報を作成し、服薬時は職員が手渡し、服薬出来ない利用者には介助している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の能力に合わせてできる範囲で支援している。又、活動を通して趣味を持っていただくようにしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>行事等で外出する機会は少ないが、天気が良ければ散歩等を行っている。家族の方にも外出等連れて行ってもらうよう働きかけ支援している。</p>	<p>外出を控える利用者が多く、日常的に外出の機会は少ないが、季節に応じて桜やつつじ等の花の見物に出かけ、また家族の協力を得ながら外出を楽しんでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族の同意を得て事業所で管理している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも電話できるような支援している。年賀状など職員が付き添い書いてもらったりしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事の時など利用者の関係に合わせて席を決めている。常に季節に合った食材などの工夫をし、心地よく過ごしていただくよう支援を行っている。</p>	<p>共用空間の中心に台所が設置され、調理の香りから家庭的な雰囲気を感じることができ、季節に合わせた職員手作りの飾り付けが、一段と温かみを添えている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下椅子や玄関先にベンチを置き利用者同士で過ごせるよう工夫している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具など持って来ていただくよう説明している。	備え付けのベッド、馴染みのタンスや調度品、寝具類が持ち込まれており、明るい日差しが差し込む大きな窓から自然の移ろいを感じることで、安心して寛げる空間の配慮がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、テーブルなど利用者に合わせて変更したりしている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない